

# 令和8年度 第3期 論文式民法試験問題

## 受験上の注意事項

- 1 監督者の指示がある前に、この問題を開くことを禁止します。
- 2 試験開始の合図により、解答を始めてください。この試験では、六法を貸与し、その使用を許可します。
- 3 試験開始の合図の後、印刷不鮮明等に気付いた場合は、黙って手を挙げ、監督者に申し出てください。
- 4 解答は、答案用紙に黒インクのペン又はボールペンにより書いてください。  
消せるボールペンや時間の経過により字が消えるボールペンは使用しないでください。また、鉛筆は不可です。
- 5 試験時間は60分です。  
試験開始後20分以内及び試験終了前5分間は、答案の提出及び試験室からの退出はできません。それ以外の時間に退出（途中退出）する場合には、黙って手を挙げ、自席で答案及び問題を監督者に渡してから退出してください。
- 6 この問題は、試験終了後、持ち帰ることができます。
- 7 次のもの以外は机の上に置かないでください。  
受験票、筆記具、時計（計算機能等のないものに限る。）、眼鏡。  
受験票は、氏名、受験番号が記載されている面を表にして、監督者が見やすい位置に置いてください。なお、上記以外のものについては、監督者の許可を得てください。
- 8 問題検討のためのラインマーカー及び色鉛筆の使用は、問題用紙に限り認めます。
- 9 携帯電話等は、必ず電源を切って鞆等にしまってください。
- 10 試験室内では、耳栓の使用はできません。
- 11 試験時間中の発病等やむを得ない場合には、黙って手を挙げ、監督者の指示に従ってください。
- 12 試験時間中の喫煙や飲食（ガム等を含む。）は、禁止します。
- 13 試験終了の合図とともに、直ちに筆記具を置き、監督者の指示を待ってください。
- 14 不正の手段によって試験を受け、又は受けようとした者に対しては、試験を停止し、合格の決定を取り消すことがあります。

# 〔民 法〕

次の文章を読んで、後記の〔設問1〕から〔設問3〕までに答えなさい。

## 【事実Ⅰ】

- 1 Aは、甲土地を所有していた。
- 2 Aと同棲していたBは、2019年5月20日、Aに無断でAの実印などを利用して甲土地の売買契約書を偽造し、AからBへの甲土地の所有権移転登記を行った。
- 3 Aは、その直後、AからBへの甲土地の所有権移転登記がされていることを知ったが、抹消登記手続きにかかる手間と費用を惜しみ、Bと同棲していることもあって、甲土地の登記名義の回復を求めることもなく約5年放置した。また、その間、Aは、銀行から金員を借り入れる際、B所有名義のまま甲土地を同銀行からの借入金の担保に供し、同銀行に対する抵当権設定登記を経由した。
- 4 Bは、2024年7月10日、甲土地をCに売却し、BからCへの甲土地の所有権移転登記を行った。その際、Cは、Bが甲土地の所有者であると信じていた。

## 〔設問1〕(50点)

【事実Ⅰ】4の後に、甲土地の登記名義がCに移転していたことに気づいたAは、AからBへの所有権移転登記は原因関係のない不実の登記であると主張して、Cに対し、甲土地の所有権に基づいてBからCへの所有権移転登記の抹消登記手続きを請求するとともに、Bに対し、甲土地の所有権に基づいてAからBへの所有権移転登記の抹消登記手続きを請求した。このうち、AのCに対する請求が認められるか（甲土地の所有権がA又はCのいずれに認められるか）について述べなさい。

【事実Ⅰ】1から4までに加えて、以下の【事実Ⅱ】5及び6があった。

## 【事実Ⅱ】

- 5 Aは、2024年1月10日、甲土地の取得を希望するDから、甲土地がB所有名義となっていることについて尋ねられた際、甲土地の売買契約書は偽造されたもので、Bへの所有権移転登記は無効である旨を告げた。
- 6 Aは、同月20日、Dとの間で甲土地の売買契約を締結し、甲土地を引き渡した。

[設問2] (20点)

【事実Ⅰ】 1から4まで、【事実Ⅱ】 5及び6を前提として、以下の問いに答えなさい。

2024年8月20日、甲土地をDが占有していることを知ったCは、Dに対して、所有権に基づいて甲土地の明渡しを請求した。設問1で甲土地の所有権がCに認められるとした場合、Cの上記請求が認められるかについて述べなさい。

【事実Ⅰ】 1から4までに加えて、以下の【事実Ⅲ】 7があった。

【事実Ⅲ】

7 甲土地の隣地所有者であるEは、甲土地を資材置場として、同土地をAの所有であると知りつつ、2003年3月3日から2025年6月3日に至るまで、所有の意思をもって平穩かつ公然に占有していた。

[設問3] (30点)

【事実Ⅰ】 1から4まで、【事実Ⅲ】 7を前提として（【事実Ⅱ】を除く。）、以下の問いに答えなさい。

2025年6月3日、甲土地をEが占有していることを知ったCは、Eに対して、所有権に基づいて甲土地の明渡しを請求した。設問1で甲土地の所有権がCに認められるとした場合、Cの上記請求が認められるかについて述べなさい。

